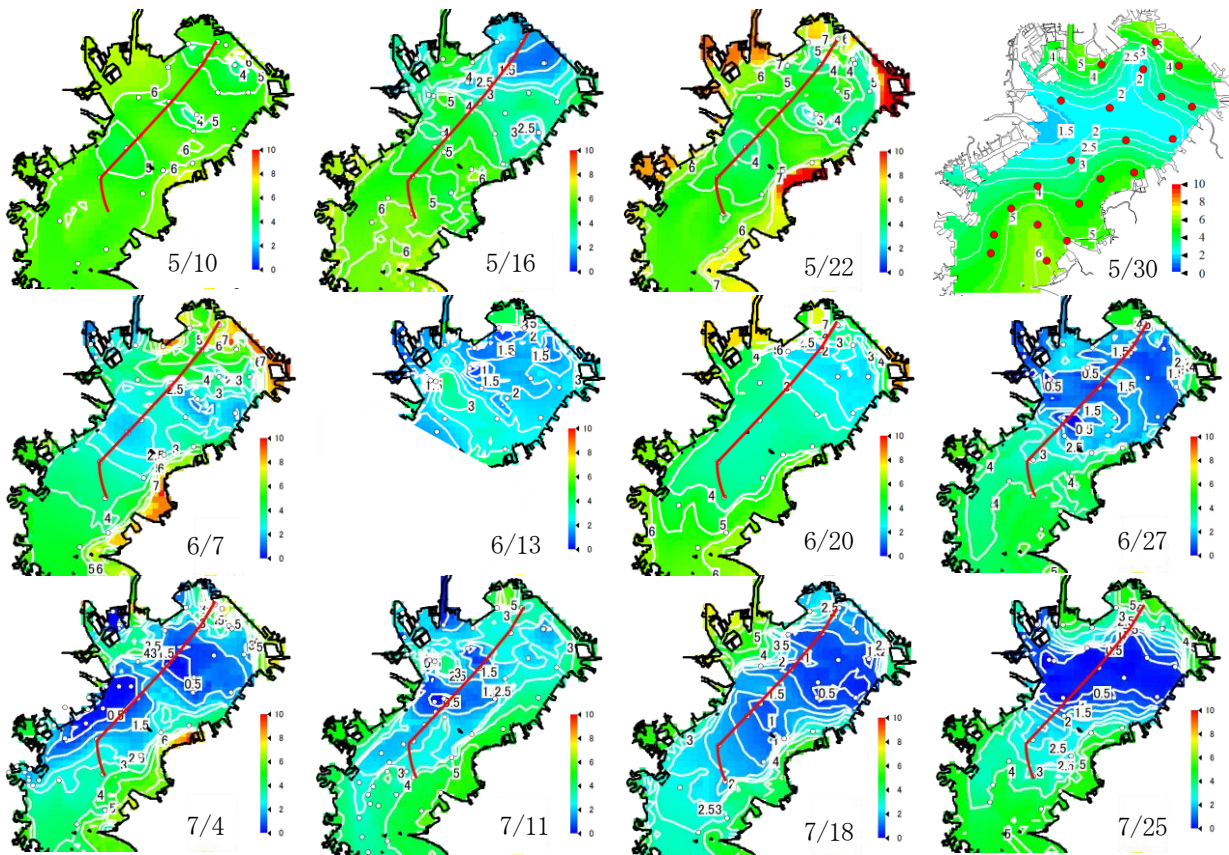


## 2023年（令和5年）の貧酸素水塊 まとめ

2023年の東京湾における貧酸素水塊についてまとめました。調査日ごとの底層の溶存酸素分布を図1に示します。貧酸素水塊は5月16日に初確認されました。5月中旬～6月中旬に一時的に縮小しましたが、6月27日に内湾北部で溶存酸素濃度(DO)が0.5mL/L以下と強く貧酸素化しました。7月上旬以降、貧酸素水塊は急速に拡大し、8月下旬に本年最大規模となりました。例年より高水温の時期が続いたため、長期間貧酸素水塊が解消されませんでした。11月上旬以降は水温の低下に伴い鉛直混合が促進され、11月21日に貧酸素水塊は解消しました。

鉛直縦断面における貧酸素水の割合からみた貧酸素水塊の規模をみると(図2)、8月8日まで直近10年平均並みに推移していましたが、その後拡大し、8月25日に46%と本年最大規模になりました。また、10月2日は10月上旬としては直近10年で最も高く、秋季まで貧酸素水塊が大規模であったことも特徴です。貧酸素水塊の年最大規模は46%であり、前年の8%減です(図3)。

千葉県水質保全課によると、青潮は5月24～25日、9月4～5日、9月23～28日、10月6～10日の計4回発生しました。



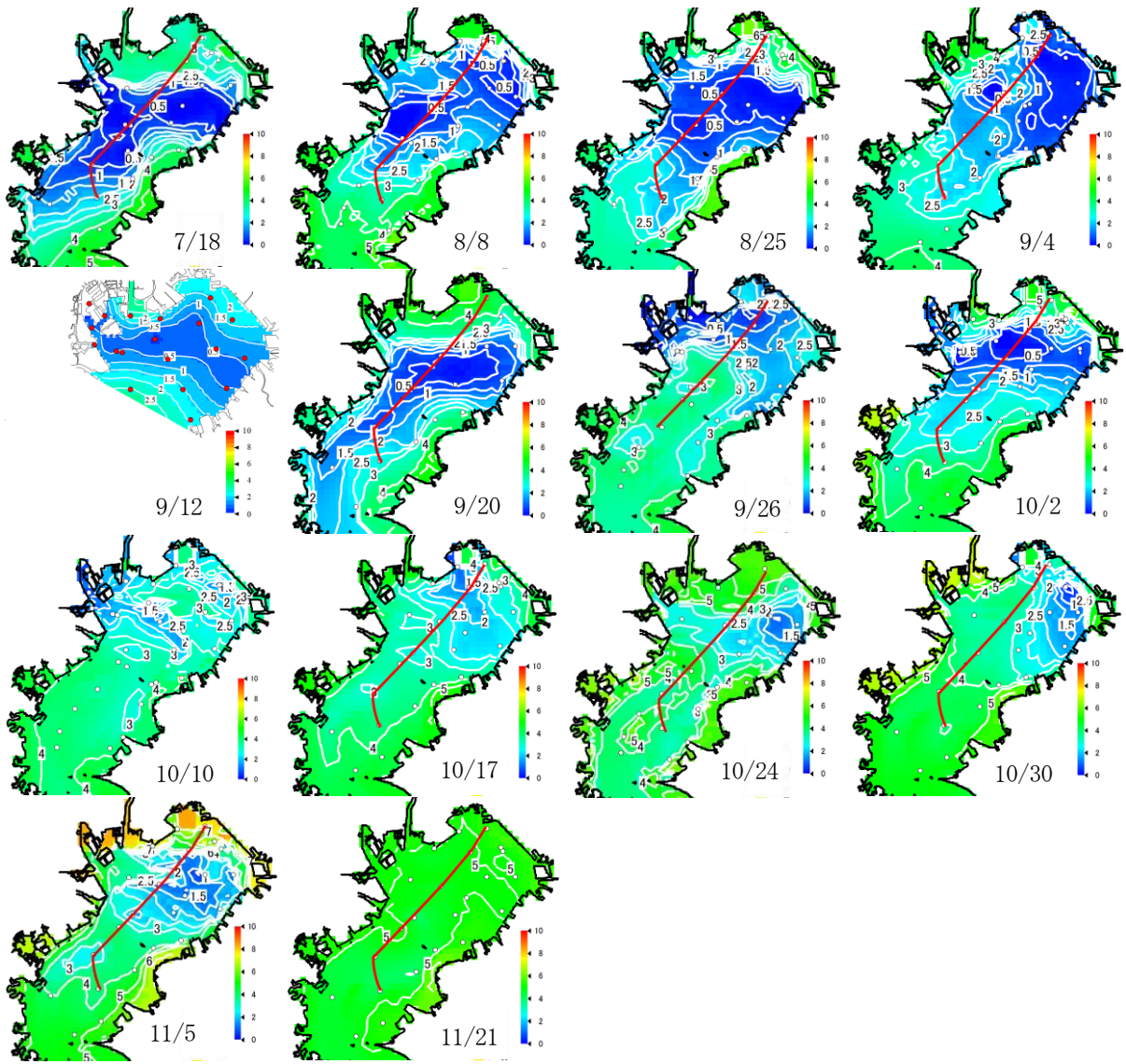


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位は mL/L 赤線は縦断ライン

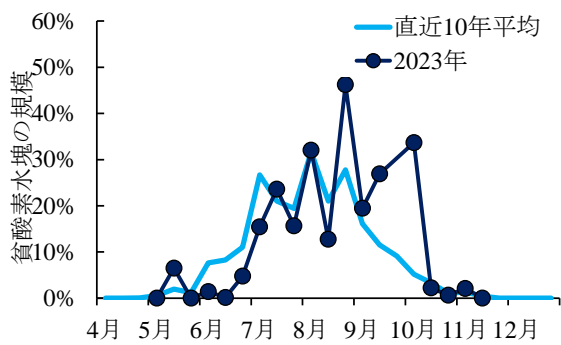


図2 縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模の季節変化

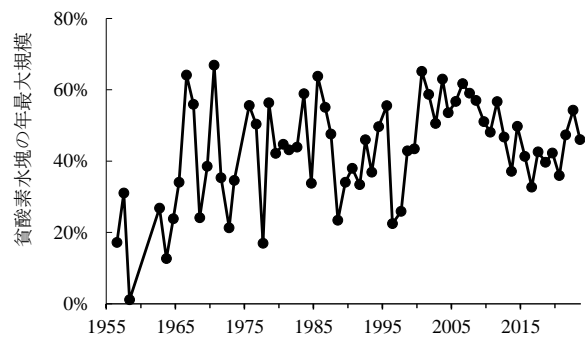


図3 年最大規模の経年変化